

令和3年（2021年）8月の大雨特定災害対策本部会議（第2回）
議事録

日時：令和3年8月14日10：30～11：00

場所：中央合同庁舎8号館3階 災害対策本部会議室

出席者：【本部長】 防災担当大臣
【副本部長】 副大臣（防災担当）
大臣政務官（防災担当）
内閣官房 危機管理監
【本部員】 内閣官房 危機管理審議官
内閣府 政策統括官（防災担当）
内閣府 大臣官房審議官（防災担当）
内閣府 大臣官房審議官（防災担当）
内閣府 男女共同参画局長
警察庁 警備局長
総務省 大臣官房長
総務省 総合通信基盤局長
総務省 自治行政局公務員部長
(代理：自治行政局公務員部公務員課
応援派遣室長)
消防庁 次長
消防庁 審議官（代理：防災課長）
財務省 大臣官房審議官（危機管理担当）
文部科学省 大臣官房文教施設企画・防災部長
(代理：大臣官房文教施設企画・防災部
参事官（施設防災担当）)
厚生労働省 大臣官房危機管理・医務技術総括審議官
農林水産省 大臣官房危機管理・政策立案総括審議官
経済産業省 大臣官房技術総括・保安審議官
国土交通省 水管理・国土保全局長
国土交通省 大臣官房危機管理・運輸安全政策審議官
国土地理院 参事官（代理：総括測量・防災官）
気象庁 気象防災監
海上保安庁 海上保安監
環境省 環境再生・資源循環局長
防衛省 統合幕僚監部総括官

1. 開会（内閣府政策統括官（防災担当）により議事次第に沿って議事進行）

2. 被害状況等の報告について

<気象庁>

資料に沿って説明

- ・本日 2 時 15 分、大雨特別警報を佐賀県及び長崎県に発表した。その後、福岡県にも発表し、現在、佐賀県の 8 市 5 町、長崎県の 3 市 3 町、福岡県の 6 市 1 町で発表している。
- ・九州北部地方だけでなく、昨日特別警報を発表した広島県など、中国地方を中心に記録的な大雨が続いている。前線は引き続き西日本から東日本に停滞するため、16 日にかけて広い範囲で重大な災害が発生する可能性がある。
- ・前線が日本付近に停滞。南から暖かく湿った空気が入る状態となっており、前線の活動が活発化している。
- ・総雨量について、10 時の時点では佐賀県嬉野で 900 ミリを超えた。このほか、四国地方や九州南部地方で 500 ミリを超えたほか、広い範囲で 300 ミリを超えている。
- ・今後 15 日 6 時までには予想される雨量は、広い範囲で 200－300 ミリ、その後 16 日 6 時まで、100－200 ミリが予想される。
- ・17 日以降も雨が続く見込み。既に記録的な大雨となっている所もあり、普段雨の少ない山陰から北陸にかけての日本海側や瀬戸内海に面した地域でも、大雨となる見込み。大雨の範囲が広がる状況が予想されている。大雨の警報級となる可能性のある期間が広い範囲で続く予定で、終わりがまだ見通せない状況。
- ・衛星画像にもあるとおり、九州の西海上に広く固まった積乱雲があり、この下では線状降水帯が発生し、次々と発達した積乱雲が流れ込む状況が続いている。こうした状況は、日中にかけて続くことが見込まれる。その後、だんだんと前線が南に下がっていき、強い雨雲も南下していくと予想される。いずれにしても、目先は同じような状況が続くことが想定され、状況が急に良い方向に変わるわけではない。
- ・24 時間雨量をみると、記録的な大雨は九州北部地方のみならず、他の地方にも広がってきている。多いところでは 24 時間雨量が 500 ミリを超えている。降り始めからの雨量は 600 ミリを超える地域も多くなっており、佐賀県では 900 ミリを超える総雨量となっている。すでに地盤がゆるい状況になっているため土砂災害に厳重な警戒が必要。
- ・今後一週間、前線が日本付近に張り付く状況が続く見通し。ただし、19 日から 20 日、21 日と太平洋高気圧が強まり、前線を押上げて、降雨の範囲は狭まることから、状況は少し改善していくと予想している。いずれにせよ前線が

停滞しているため引き続き西日本から北日本の広い範囲で大雨に警戒する必要。

- ・気象庁としては引き続き適時に防災気象情報を発信し、地域それぞれの気象台でホットライン、JETT等によって、地域の防災を支援していきたい。

3. 被害状況及び各省庁の対応状況等について

<内閣府政策統括官（防災担当）>

- ・人的被害は死者1名、行方不明が2名などとなっている。
- ・建物の被害は、これからまだ増える可能性がある。
- ・各省庁の対応としては、リエゾンの派遣、部隊の待機、ヘリの待機など所要の対応をとっていただいている。
- ・災害救助法の適用については、広島県3市1町で災害救助法の適用が行われている。
- ・河川は、5時の時点で、9水系11河川で氾濫となっている。佐賀県の六角川などについては、後ほど国土交通省から詳しく報告していただく。
- ・ライフラインは、停電約4,150戸、断水約10,651戸、通信は一部エリアで支障が生じている。
- ・交通機関は、高速道路1路線2区間で通行止め、直轄国道4路線4区間で通行止め、鉄道は、JR西日本の山陽線、可部線で線路冠水、JR九州の久大線は橋梁被害があったのではないかとということで確認をして頂いている。
- ・避難状況は、全国で避難所3000か所以上、約5800人が避難している。キャパシティを超えているところはない。コロナ対策に留意されて避難所の運営がされている。

<警察庁>

資料に沿って説明

- ・昨日に引き続き、関係機関と連携して広島市や雲仙市における行方不明者の捜索を行っている。
- ・佐賀県六角川の氾濫の危険性を踏まえて、すでに越水している他地域におけるボートによる救助活動や、下流域の地域住民に対する避難誘導活動を実施している。
- ・管下機動隊については、九州北部の状況を踏まえて、近畿の3府県の部隊が九州方面に対して待機態勢をとるべく出発準備をしている。今日の夜には九州管区警察学校に到着予定である。
- ・ヘリ部隊については、引き続き待機態勢をとっているところ。

<消防庁>

- ・119 番の通報の状況については、佐賀県や福岡県久留米市等で浸水による救助要請等があり、現在、ボート等で救助活動中である。
- ・昨日、長崎県雲仙市小浜町における土砂崩れによって、家屋 2 棟が全壊したが、関係省庁とともに今朝 7 時 30 分から活動再開しているところ。
- ・緊急消防援助隊は、九州と中国地方を対象として、出動体制を確認中である。
- ・杵藤地区広域市町村圏組合消防本部において、令和元年に危険物流出事故が発生した事業所に対する、注意喚起等を指導済みであることを確認。
- ・佐賀県小城市で人が流されたという通報があり、出動中であるが、人数や詳細は現時点で不明。
- ・佐賀県武雄市で屋根の上に人が 7 名おり、救助要請があり、佐賀県のヘリが 10 時 40 分離陸している。

<海上保安庁>

資料に沿って説明

- ・有明海に巡視船 1 隻、熊本沖、鹿児島沖にそれぞれ巡視船を配備している。
- ・うち 1 隻には、ヘリを搭載しているため、何かあれば、有明海を通じて佐賀沖に展開できる状況になっている。
- ・ドローンの部隊を佐賀県に向けて輸送中であり、状況により、ドローンを使った状況調査も可能である。

<防衛省>

資料に沿って説明

- ・自衛隊の態勢としては、自治体等への連絡員の派遣やヘリの待機、初動対処部隊を待機させ、厳重な警戒態勢をとっている。
- ・昨日発生した長崎県雲仙市の土砂崩れに関して、昨日、長崎県知事から災害派遣要請がなされた。これを受けて、本日早朝より、人員約 70 名、重機 1 両、災害救助犬 2 頭を投入し、警察や消防と連携して人命救助活動を行っている。
- ・防衛省・自衛隊としては、自治体や関係機関と緊密に連携し、万全の態勢で対応していく。

<国土交通省>

- ・10 時時点の情報となるが、六角川について、消防や警察において救助活動が行われているのは、六角川の左岸で、武雄市から大町町の間にあたる地域であり、内水により広域に浸水する状況になっている。この地域には、国が管理する排水機場があるが、六角川の水位が高いため、ポンプを稼働できない状況である。六角川の水位が下がったら、排水機場を稼働させて排水するようにする。
- ・六角川においては、潮見橋付近で 7 時半までの間に溢水があり、道路冠水が生

じた。

- ・大日堰付近では、堤防を乗り越えて左岸側への越水が 30 分程度続いたが、その後は降雨が弱まり水位が下がり、現在は越水していない。
- ・内水氾濫の生じた区域の一番下流側にあたる新橋付近では、上流からの流量が減ったため、現在、水位は低下傾向である。しかし、有明海では、本日 12 時半に満潮を迎える。現在は小潮であり、潮位変動は比較的少ない時期にあたるが、潮位の影響はすでに下流側から始まっている。白石町の六角橋では、上流からの流水と潮位の影響が合わさって、水位が上昇中である。こうした状況が上流の方に伝播していくので、新橋付近の水位低下が若干鈍くなってくることが予想される。また、上流からの流水も入ってくるため、引き続き武雄～大町～白石の間の河川は予断を許さない状況であり、警戒していきたい。
- ・内水氾濫が発生している範囲には国道 34 号が走っており、路面冠水が続いている状況。
- ・続いて、六角川以外の情報として、広島県庄原において、負傷者 1 名を生じた土砂災害が発生している。また、江の川については、水位は低下しており、浸水被害も限定的に終わっているものの、引き氾濫危険水位を超えている状況が継続している。木曾水系の水門川では、JR 大垣駅の北側で小規模な浸水が発生している。
- ・今後は、九州北部地方や中国地方について、河川の水位が上昇している地域もあることから、引き続き注視していきたい。
- ・九州北部地方の公共交通の状況について、鉄道は朝 9 時時点で JR 九州や西鉄等 5 事業者 18 路線で運転を見合わせている。施設被害については、2 事業者 2 路線で確認している。JR 九州佐世保線で線路冠水、西鉄天神大牟田線で土砂の流出が確認されている。このほか、大分方面に向かう JR 九州の久大線において、湯布院の方で施設被害が発生しているとの情報があり、現在確認中である。
- ・六角川の近くを走る長崎本線、佐世保線、唐津線は運転を見合わせている。
- ・長崎空港、佐賀空港、福岡空港の航空便は通常運行の予定だが、佐賀空港ではアクセスバスが運行を見合わせている。佐賀空港は今後出発 4 便、到着 5 便が予定されているが、マイカーを使用する人が多く、タクシー利用も併せれば、空港での滞留は発生しないと考えている。
- ・全国では、鉄道 20 事業者 75 路線が運転を見合わせている。九州地区以外では、JR 西日本山陽本線可部線で線路冠水の被害を確認している。天候回復後の施設点検により、被害の状況が徐々に判明していくと思われる。
- ・航空便については、昨日は九州地区発着の航空便を中心に 22 便が欠航していたが、現在では欠航の予定はない、
- ・天候の回復とともに状況が明らかになってくると思うが、今後も情報収集を進

めて必要な対応を講じてまいりたい。

<総務省>

資料に沿って説明

- ・携帯電話の支障について、NTTドコモは岡山県津山市の一部エリアに支障があったが、解消している。
- ・KDDIは、広島県広島市と安芸高田市の2市において24局停波し、エリア支障があるが、現状、車載型基地局1台が出動済み。本日中に20台を手配し、出動させた上で復旧を目指すこととしている。
- ・災害対策用の移動通信機器の貸与状況については、携帯電話及びタブレットの必要な台数をNTTドコモから自衛隊(西部方面隊)に貸与しているところ。

<厚生労働省>

資料に沿って説明

- ・断水の状況については、広島県、長崎県、熊本県内の6事業者において、水源の濁りや水道管の損傷等により、約10,600戸が断水中である。
- ・病院の状況については、佐賀県の病院では、病院自体は浸水していないが、病院に向かう道路が浸水しており、職員が交代できず、消防がボートにより支援している状況である。

(質疑等)

<消防庁>

先ほど、佐賀県の小城市で人が流されたという通報で出動中と申し上げたところだが、その後情報が入り、警察によって救助済みということである。

<内閣危機管理監>

武雄市で屋根のうえに7名程度おり、へりで救出に向かわれているということであるが、へりはどの空港から飛んだのか?

<消防庁>

佐賀空港となる。10時49分に離陸し、10分後に現地に到着する予定である。

<棚橋特定災害対策本部長>

佐賀県の小城市で人が流されたが、警察において救助されたという点、武雄市においては7名の方が屋根の上で救助を待たれており、これについては消防においてへりで現地向かわれているという点、こちらで事実関係に間違いはないか。

<警察庁>

小城市の件については、今朝の時点で、人が流され救助されたとの報告が入っているが、その件と同一であるか、確認中である。

<消防庁>

武雄市の件については、そのとおりである。

<棚橋特定災害対策本部長>

六角川水系だが、白石町をはじめ、関係基礎自治体で避難指示等がきちんと発令されているかどうか、情報を把握しているところはあるか。

<内閣府（防災担当）>

白石町をはじめ、警戒レベル4 避難指示や警戒レベル5の緊急安全確保が発令されていると認識している。

<棚橋特定災害対策本部長>

避難指示・緊急安全確保が発令され、適切な措置がなされているが、満潮も近づいており、住民の方々の適切な避難行動が徹底されるよう、再度お願い申し上げる。

<内閣府（防災担当）>

気象台や国交省地方整備局の河川事務所等から自治体に対してホットラインが結ばれており、また消防庁からも働きかけが行われていると伺っている。

<警察>

ただいまの件については、白石町に対しては、警察官も50名投入し、交差点において、浸水エリアに車を流入させないように、浸水エリアから車がスムーズに出られるようにしている。また、避難に関する呼びかけも行っているところ。

（報道関係者入室）

4. 棚橋特定災害対策本部長発言

<棚橋特定災害対策本部長>

- ・ 8月11日から停滞している前線が、活発に活動を続けている。
- ・ 今回の大雨により、現時点において、死者1名、行方不明者2名などの人的被害が報告されている。また、住家被害も報告されている。
- ・ 亡くなられた方にお悔やみを申し上げるとともに、被災されたすべての方々

に、心よりお見舞い申し上げます。

- 本部員の皆様方においては、引き続き、地方自治体や関係機関と緊密に連携し、被害状況を迅速に把握するとともに、人命第一の災害応急対策に全力で取り組むようお願いする。
- 本会議において、川に流された方の救助を警察において行った話があった。また、武雄市において、屋根に残された方々の救助に消防がヘリを派遣している話もあった。人命第一に、一方で、二次災害に十分に警戒しながら、皆様方の活動を、是非よろしくお願い申し上げます。
- 本日未明から、佐賀県、長崎県、福岡県に大雨特別警報が発表された。すでに九州や西日本では、これまでの大雨により、河川の氾濫や土砂災害による被害の危険性が切迫している地域が多くある。
- 関係省庁におかれては、引き続き、万全の体制を確保し、人命を第一に、先手先手で、避難支援等の事前対策に総力を挙げて取り組んでください。
- 地方自治体の首長の皆様方においては、空振りを恐れずに、人命最優先で、避難指示や緊急安全確保等の避難情報を適切に出していただき、住民の皆様方に周知していただくようお願い申し上げます。
- 特に、新型コロナウイルスの感染が拡大していることに注意し、避難所における3つの「密」の回避を図っていただくなど、適切な対応が可能となるよう準備をお願いする。
- 国民の皆様方においては、住まいの地域のハザードマップを改めて確認するとともに、避難情報や気象情報に特に注意してください。
- 雨の強さが弱まっても、河川の氾濫が起きる危険がある。地盤が緩んでおり、土砂災害が発生する恐れがあることを、強く認識していただくようお願い申し上げます。
- 「自分は大丈夫」といった、いわゆる「正常性バイアス」に陥ることなく、少しでも危険を感じたら躊躇せずに避難するなど、早め早めに、命を守る行動をとってください。

(報道関係者退室)

5. 閉会